



HELLO, NEW CITY.

新しいまちの暮らし

スーパースマートシティうつのみや始動

 住めば  
愉快だ  
宇都宮  
UTSUNOMIYA

令和4年度「行政評価」の結果について

令和4年7月25日

## 令和4年度「行政評価」を実施し、 市民サービスの向上に取り組んでいます。

本市では、「第6次宇都宮市総合計画」を着実に推進するため、「PDCA（※）」のマネジメントサイクルを実施しており、この度、令和4年度「行政評価」の結果をとりまとめました。

今後は、この結果に基づく施策の立案や見直しを図り、市民サービスの更なる向上などにつなげ、スーパースマートシティ（SSC）の実現に取り組んでまいります。

※Plan（各種計画等の策定）-Do（事業の実施）-Check（行政評価）-Action（事業の見直し等）

### ○ 行政評価の総括（詳細は別紙1）

#### 1. 施策評価

評価区分	R4 施策数(割合)	R3 施策数(割合)
順調	11 (12.9%)	14 (16.5%)
概ね順調	69 (81.2%)	69 (81.2%)
やや遅れ	5 (5.9%)	2 (2.3%)
計	85 (100.0%)	85 (100.0%)

⇒ 感染症により、約2割の事務事業において、中止や規模縮小などの影響を受ける中においても、「順調」・「概ね順調」と評価された施策が9割以上を占めている。「順調」と評価された「教育環境の充実」や「地域特性に応じた安全で快適な市街地の形成」などの施策については、産出指標と成果指標が「目標値以上」となったことが要因である。

⇒ 一方で、「やや遅れ」と評価された施策については、令和3年度評価から3件増加し、5件となっている。「市民満足度」低下の要因としては、感染症の影響等を受け、「市民満足度」がC評価となった施策が、令和3年度の評価と比べ、6件から14件に増加するなど、「市民満足度」の評価が施策全般において低下したことなどによるものと考えられる。

### 【SSCの実現に向けた「今後の課題」と「取組の方向性」（主なもの）】

総合計画の6つの分野の85施策の中から、SSCに関連の深い主な施策の「今後の課題」と「取組の方向性」を抽出した。

SSCの構成要素	◆：今後の課題 ⇒：取組の方向性
地域共生社会	<b>結婚・出生の希望をかなえる取組の強化</b> ◆ 本市の婚姻件数が減少する中、若者が結婚や子育てに対する展望を持ち、結婚・出生の希望をかなえられるよう、更なる取組の強化が必要である。 ⇒ 安定した雇用の場の創出や結婚活動の支援、経済的負担の軽減など、結婚・出生の希望をかなえるための取組を推進していく。

裏面あり

<問い合わせ先> 総合政策部政策審議室 室長 馬場 将広(028-632-2888)



HELLO, NEW CITY.

新しいまちの暮らし

スーパースマートシティうつのみや始動

住めば  
愉快だ  
宇都宮

SSCの 構成要素	◆：今後の課題 ⇒：取組の方向性
地域経済 循環社会	<p><b>戦略的観光・MICEの推進</b></p> <p>◆ 駅東口のまちびらきや、ポストコロナを見据えた観光需要の回復等を契機とし、観光施策を戦略的に展開するなど、本市経済の活性化を図る必要がある。</p> <p>⇒ 「ライトキューブ宇都宮」やスポーツなど、本市の地域資源を活用したMICE誘致の強化や、インバウンドを含めた誘客プロモーションなどの取組を積極的に推進していく。</p>
脱炭素 社会	<p><b>市民の行動変容の促進</b></p> <p>◆ 脱炭素社会の実現に向けては、市民一人ひとりが日常生活において、更に主体的・積極的に環境に配慮した行動が実践できるよう、取組の強化を図る必要がある。</p> <p>⇒ 「もったいない運動市民会議」などと連携した食品ロスやプラスチック製品の削減、環境にやさしい公共交通の利用促進など、市民の行動変容をより一層促進していく。</p>
NCC	<p><b>NCCの実現に向けた拠点化の推進</b></p> <p>◆ 地域の特性に応じたコンパクトで調和の取れた都市空間形成のより一層の推進が求められている。</p> <p>⇒ 拠点への都市機能・居住誘導やJR宇都宮駅東側のLRT沿線のまちづくり、駅西側へのLRT導入を見据えた中心市街地の活性化などを推進していく。</p> <p><b>多様な公共交通ネットワークの充実</b></p> <p>◆ 誰もが安心して快適に移動できるよう、LRTを基軸とした総合的な公共交通ネットワークの更なる充実を図る必要がある。</p> <p>⇒ 駅西側へのLRTの延伸や乗継割引制度の導入、新たな端末交通の導入検討や地域内交通の充実など、更なる利便性向上に取り組んでいく。</p>

## 2. 事業評価

評価区分	R4 施策数(割合)	R3 施策数(割合)
計画以上	5 ( 0.6%)	5 ( 0.6%)
計画どおり	700 ( 81.6%)	647 ( 77.7%)
計画より遅れ	3 ( 0.4%)	2 ( 0.2%)
感染症の影響による変更有	150 ( 17.4%)	179 ( 21.5%)
計	858 (100.0%)	833 (100.0%)

- ⇒ 全事業の約2割において、新型コロナウイルス感染症の影響により予定していた事業の中止や縮小などの変更が生じた。
- ⇒ このような中においても、イベントや講座、相談事業における感染症対策の徹底や、ICTを活用したオンライン事業の実施など、創意工夫を發揮しながら、市民サービスの維持・向上に取り組んでいる。
- ⇒ 今後は、感染症に留意しながら、市民サービスの向上に取り組んでいくとともに、SSCの実現に向けた取組を着実に推進していく。

<問い合わせ先> 総合政策部政策審議室 室長 馬場 将広(028-632-2888)